

## 4月からの宇治市新年度予算

# 物価高騰の時にさらに市民生活を苦しめる **値上げラッシュ**

## 国民健康保険料も介護保険料も後期高齢者医療費も・

物価の高騰が止まりません。あらゆる日用品や食料が値上げされ、2023年1年間の値上げ品目数は、3万2395品目となり、市民生活を直撃しています。

市民が物価高騰に苦しんでいる中、追い打ちをかけるように、宇治市の2024年度予算は、命や暮らしを支える国保料・介護保険料・後期高齢者医療費が軒並み、大幅な値上げになっています。

### ●国民健康保険料はかつてない10%超の値上げ 一人あたり年間1万2000円も・

国民健康保険制度は、国民の医療を支える保険制度の根幹です。宇治市の国保加入世帯数は2万3634世帯、加入者数は3万5627人(2023年度)。自営業や年金生活者、非正規労働者など、収入が厳しい方が加入しています。

2018年度から始まった国保の一元化制度により、京都府が求める納付金を納め、府が示す標準保険料率に従って市の保険料率を決めています。市は、「府への納付金額が大きかった」、「標準保険料率も高いので基金を7千万円活用して保険料率を抑えた」と説明しています。

しかし、他の自治体が、国からの保険料の上昇を抑えるために交付されている国保財政安定化支援事業は、「交付金であり、使い方は市の裁量」である、「一般会計からの際限のない繰入れは、他の市民の理解を得られない」と答弁しています。

その一方で、健康保険事業には、一般会計から1億円を繰り入れています。

市は他市にない、「基金に3億円残す」という特異なルールをつくり、加入者の負担を増やしています。

### ●介護保険料も値上げ

2000年に始まった介護保険制度は3年毎に見直しが行われ、高齢世帯の市民から、保険料や介護サービスの負担で、これからどうなるのかと不安の声が上がっています。

市の介護保険料は所得に応じて15段階に区分。24年度の保険料も、住民税非課税で世帯の合計所得が125万円～200万円の方では、8万8440円⇒9万2040円、3600円もの値上げです。

### ■3人家族の場合(40歳の夫・妻35歳と未就学児1人)

	2023年度	2024年度	
給与収入	保険料	値上げ額	
220万円	24万5890円	27万3870円	2万7,980円
300万円	32万0540円	35万7530円	3万6990円
400万円	44万6330円	49万8090円	5万1760円

### ■1人当たりの保険料

	2023年度	2024年度	値上げ率
39歳以下	8万4690円	9万6719円	10.20%
40～64歳	11万1576円	12万3731円	10.89%
65～74歳	8万4690円	9万6719円	14.20%

党議員団は、基金の活用や他市が当たり前に行っている一般会計からの繰入れを行って保険料を据置するための修正案を提案しましたが、自民、公明、うじ未来(立憲、国民)、維新、京都宇治党・蒼の会が修正案に反対し、市長提案の過去最大の値上げ案に賛成し可決しました。



### ●後期高齢者医療費も値上げ

75歳以上の高齢者が移行させられている後期高齢者医療保険は、24年度に保険料が改定され、均等割額5万3420円⇒5万6340円。所得割率10.46%⇒10.95%へと引上げされています。

物価の高騰で、暮らしや営業が大変なときに、社会保険料をこんなに値上げしてさらに市民生活を追い込むことは許せません。